

## - キャベツほ場でコナガの寄生が多く確認されています -

- 現地ほ場及び定点調査ほにおけるフェロモントラップでのコナガ雄成虫の誘殺が5月中～下旬にかけて平年よりも多かった。この時期に、コナガ成虫が多数飛来したと推測される。
- 6月1～3日の夏秋キャベツでの巡回調査において、過去5か年平均よりもコナガの寄生頭数(蛹、幼虫)は多く、発生地点率も高かった(図1, 2)。
- 向こう1か月の降水量は少ない予報となっており、コナガの発生に好適な条件が今後も続くものと推測され、結球葉の食害による品質低下が懸念される。他のアブラナ科野菜についても発生状況に注意が必要である。

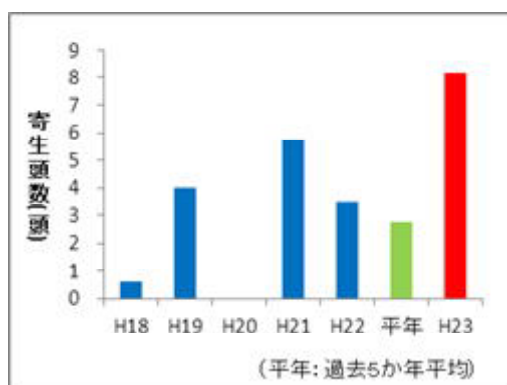


図1 6月上旬の寄生頭数  
(蛹・幼虫)(10株あたり)

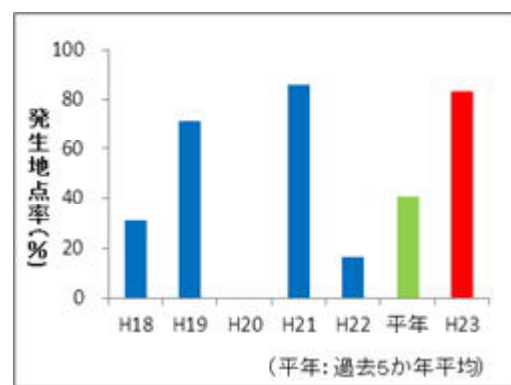


図2 6月上旬の発生地点率(%)

### 防除対策

- 薬剤の効果が高いのは中齢幼虫の時期までであり、結球内に入り込まれてからでは薬剤がかかりにくく効果が低下するので、発生初期からの防除を徹底する。
- 年間世代数が多く、薬剤抵抗性が発達しやすいので、登録されている希釈倍数や使用量、使用回数を守り、有効成分の異なる薬剤をローテーション使用する。
- 薬剤散布を行う場合は葉裏にもよくかかるよう、株全体にていねいに散布する。
- 今後定植する場合は、育苗トレイでの灌注や粒剤の株元処理等により防除する。

### 防除上の注意

「蚕注意マーク」等の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用(時期)を決めてください。

キャベツは薬剤の付着が悪いので、展着剤を加用してください。

薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。また、農薬を散布する際には周辺作物の収穫時期に注意し、農薬が飛散しないよう防止対策をとるとともに、散布農薬を必ず記帳してください。

農薬登録情報 [http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

農薬の空容器の野焼き(野外の焼却)は禁止されています。農薬の空容器の処理に当たっては、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適正に処理してください。